

■ニンジンのトンネル栽培 とう立ちさせない温度管理を

ニンジンの発芽適温は 15～25 度で発芽には 10 度以上、生育適温は 18～21 度です。緑植物春化型といい、ある程度の大きさになり、低温に遭遇すると花芽が形成され、その後の長日と高温でとう立ちが始まる野菜です。

【品種】

春まき用にはとう立ちがしにくい品種を選びましょう。どんな土壌にも適し、作りやすい「向陽二号」(タキイ種苗)、草勢が強く、芯まで鮮紅色になる「ちはま五寸」(横浜植木)などがあります。なお、暖地向きの「黒田五寸」はとう立ちの早い品種です。

【畑の準備】

種まき 2 週間前に 1 平方 m 当たり苦土石灰 100g をまき、30cm 程度の深さに耕します。1 週間前に、化成肥料(NPK 各成分で 10%) 100～150g と完熟堆肥 2～3kg を施し、土とよく混ぜておきます。

条間 15cm、株間 15cm などの穴開きマルチ資材の規格に合わせた 70～80cm のベッド幅を作ります。マルチは早めに張って地温を上げておきましょう。

【種まき】

温暖地では 1～2 月から種まきができますが、家庭菜園では 3 月まきが安心です。穴開きマルチでは、1 穴に 5～6 粒まきます(図 1)。

【トンネルの設置】

換気作業を省力化するには穴開きのトンネル

図1 種まき

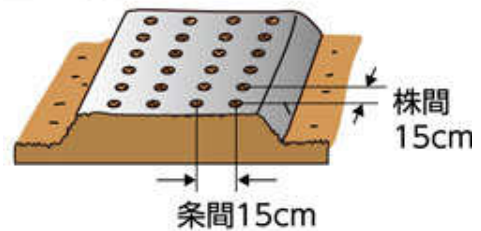


図2 トンネルの設置

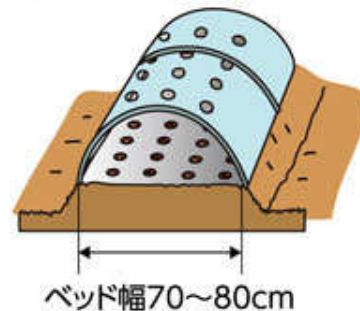


図3 間引き



図4 土寄せ



図5 収穫



資材(農ポリ)を選ぶと良いのですが(図2)、普通の農ポリでは生育に従って裾を上げて換気をします。さらに、トンネル内の茎葉が茂り、いっぱいになればトンネルを外します。

【間引き】

1回目は本葉2~3枚のときに2~3本、2回目は5~6枚のときに一本立ちにします(図3)。

【土寄せ】

間引きと同時に土寄せを行い、さらに収穫期近くには、根の肩の部分にさらに土寄せして、根が緑に着色するのを防ぎます(図4)。

【収穫】

根の径が4~5cmに肥大した株から順次抜き取ります。太り過ぎて裂根しないうちに収穫をします(図5)。裂根は急激に肥大する生育後半、畑が乾燥または過湿となる水分条件で起きやすいものです。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

板木技術士事務所 ● 板木利隆